

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名 称：生きる意味 ―コロナ収束後の産学連携が目指す価値の創造―

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：なし

3 開催日時：令和2年9月20日（日） 13時00分～17時30分

4 開催場所：日本学術会議講堂（オンライン配信あり）

5 開催趣旨：

日本学術会議の政府・産業界連携分科会は、大学と産業界両方の関係者が近未来へ向けて双方が納得し推進できる新しい産学連携の在り方について議論を重ねてきた。2018年11月にはその議論を提言として発表し、これをもとに、昨年3月から10月にかけて3回のシンポジウムと学術フォーラム開催し、産学共創のあり方、人材育成、ベンチャー・インキュベーションについて議論を展開した。今回はその集大成として、「生きる意味」について、産学官の代表者を招いて議論した。とりわけ、新型コロナウイルスによって大きく暮らし方を変更せざるを得なくなった現在、その影響も踏まえて将来の社会、産業、学術、教育について語ることは、これから大きな価値の転換が起こる未来を見通す上で不可欠であろう。また、科学技術基本法が改訂され、第6期科学技術・イノベーション基本計画の中で人文科学に期待する動きが強まっている。そこで、今回は哲学を中心とした人文学の考えに、科学技術や産業界が関わる立場で議論することにし、その実行のために科学技術・イノベーション基本計画についても討論を行った。

6 参加人数：

講演者等：11名

講堂参加者：33名、オンライン参加者：313名

7 特記事項：

新型コロナウイルスによって社会は大きく変わると言われているが、これは現代社会の特徴に乗じて世界的流行を起こしたと考えることもできる。哲学を中心に「生きる意味」を今一度ここで見直し、産学連携がどんな価値を創造できるか産学官がともに考える機会となった。また、その内容を第6期科学技術・イノベーション基本計画に反映させるための議論も行われた。本学術フォーラムの報告は以下のWebサイトに掲載された。

サイエンスポータル：

[https://scienceportal.jst.go.jp/reports/other/20201022\\_01.html](https://scienceportal.jst.go.jp/reports/other/20201022_01.html)

客観日本：

[https://www.keguanjp.com/kgjp\\_jiaoyu/imgs/2020/09/20201001\\_2\\_01.pdf](https://www.keguanjp.com/kgjp_jiaoyu/imgs/2020/09/20201001_2_01.pdf)